



早いもので平成30年度前期が終わります。お子さんの頑張りを通達表をとおしてお知らせしますが、Aの数を数えることだけに終わらず、日常のお子さんのノートやワークシート類にも目を通してあげてください。どんなことを学習しているのか、どんなことを考えたのか、どんな字で書いているのかなど、保護者の皆さんの目からもお子さんの今後についてアドバイスをしてあげてください。

今回の「ちござくら」では、本校の「教育目的と役割 (5/31付「ちござくら」参照)」を遂行する上でも大きいと考える9月に行った2つの学校行事について紹介します。

## 修学旅行 ～本校に通う子供のために～

9月26日(水)から3日間、天候にも恵まれ、子供たちの多くが学校行事の中で一番楽しみにしている修学旅行を行うことができました。担任の願いで、コースは毎年少し変わりますが、今年のコースは次のとおりでした。

《1日目》広島・厳島神社→平和記念公園

《2日目》兵庫・姫路城→大阪・選択体験学習、海遊館

《3日目》奈良・法隆寺→奈良公園 (東大寺周辺の班別行動)



公立の小学校では考えられない修学旅行を本校が行っているのは、2つの理由があります。1つは教科書等で学習した歴史や文化を直接見聞きすることで、知識を一層深めてほしいことです。もう1つは3年生のなかよし合宿に始まった宿泊体験学習の集大成として、親元を離れて友達と共同生活を行い、集団の一員としての自覚を高め、公共でのルールをわきまえて行動できるようになってほしいことです。

さて、今年の修学旅行には私も同行しました。本校の修学旅行に引率するのは、これで6回目になりますが、何度行っても、私が一番印象に残るのは、広島での平和学習です。今年はいつも以上に展示してある文章を念入りに読むことに心がけました。もちろん被爆体験をされた方の感情とは比べようもないと思いますが、戦争の悲惨さや原子爆弾の脅威を深く感じました。子供たちの中には、展示ブースの前で、中に入らず立ち止まっているグループもありました。「どうして入らないの?」「もう無理。見ることができません。」子供たちも授業では考えなかったことを味わう機会になったことと思います。



【広島:平和記念公園にて】



【奈良:東大寺にて】

もう1つ挙げるとしたら、大阪での「お笑い体験」です。私は、初めてこの体験に参加しました。(正直なところ、あまり期待していなかったのですが)子供たちも私も、笑っぱなしでした。漫才師の子供をその気にさせる話術には、教員の仕事に通ずるものがあり研修の観点からも参考になりました。さすが附属の子！子供たちの反応がいいので、漫才師もやりやすかったと思います。

子供たちは3日間の修学旅行でどんなことが一番印象深かったのでしょうか。

富山駅での到着式でも言いましたが、今回、一人の欠席者もなく、途中、体調不良等でリタイヤする子もなく、6年生全員で同じ思い出を共有できたことがとてもよかったです。卒業まで、残りちょうど6ヶ月になります。楽しい思い出、時には苦い思い出もして、もっともっと心を成長させて卒業してほしいと願っています。

1～5年生の保護者の皆さんも、6年生での修学旅行を楽しみにしててください。

## 教育実習 ～教員を目指す学生のために～

9月21日(金)までの3週間、こちらも本校の大事な学校行事である教育実習を行いました。

現在の教育課題の一つに教員年齢の二極化、つまり教員の多くが50代と20代の教員に偏り、教員のスキルが受け継がれないということが指摘されています。そんな中、これから教員を目指す学生を教育し、教育界に優秀な人材を送り出すことが附属の役割として重要になっています。現在、教育実習は、2年生と3年生で附属小学校と堀川小学校で1回ずつ実習するシステムになっています。教育実習は授業を中心に進めます。また、希望者に限り4年生でインターンシップ生として附属小学校で、教員の仕事を体験しています。

今年は、人間発達科学部の学生(2年生と3年生)46名が教育実習に参加しました。初日には、子供たちの前で自己紹介をするだけでも「緊張する！」と言って心配顔の教生先生もいましたが、日に日に堂々と子供たちの前に立てるようになってきたように感じました。

最終週には、教育実習の成果を確かめる公開授業と、涙のお別れをする実習修了式、学級お別れ式がありました。教育実習をしたからといって、即教員がつとまるという簡単な仕事ではありませんが、教員になりたいという気持ちを強め、就職に向けて自分の課題と今後の展望をもってくれたらうれしいなと思います。

### 《体育館前 壁画の修復作業》

ご存じのことと思いますが、本校の渡り廊下から体育館前にかけて卒業制作の壁画があります。これは過去の卒業生が、当時、大学で美術を担当されていた丹羽教授や学生さんと一緒に制作したものです。体育館前にあるのは、平成2年度卒業生の「自然・夢・未来」という作品です。「自分も作った」という保護者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

この壁画も長い年月をかけて老朽化していたのですが、夏休み明けから退官された丹羽教授夫妻が時間を割いて修復に来てくださっています。ひび割れがなくなり、色も鮮明になってきています。たいへんありがたいことです。



(副校長 曲師政隆)